

### 環境調査結果のお知らせ

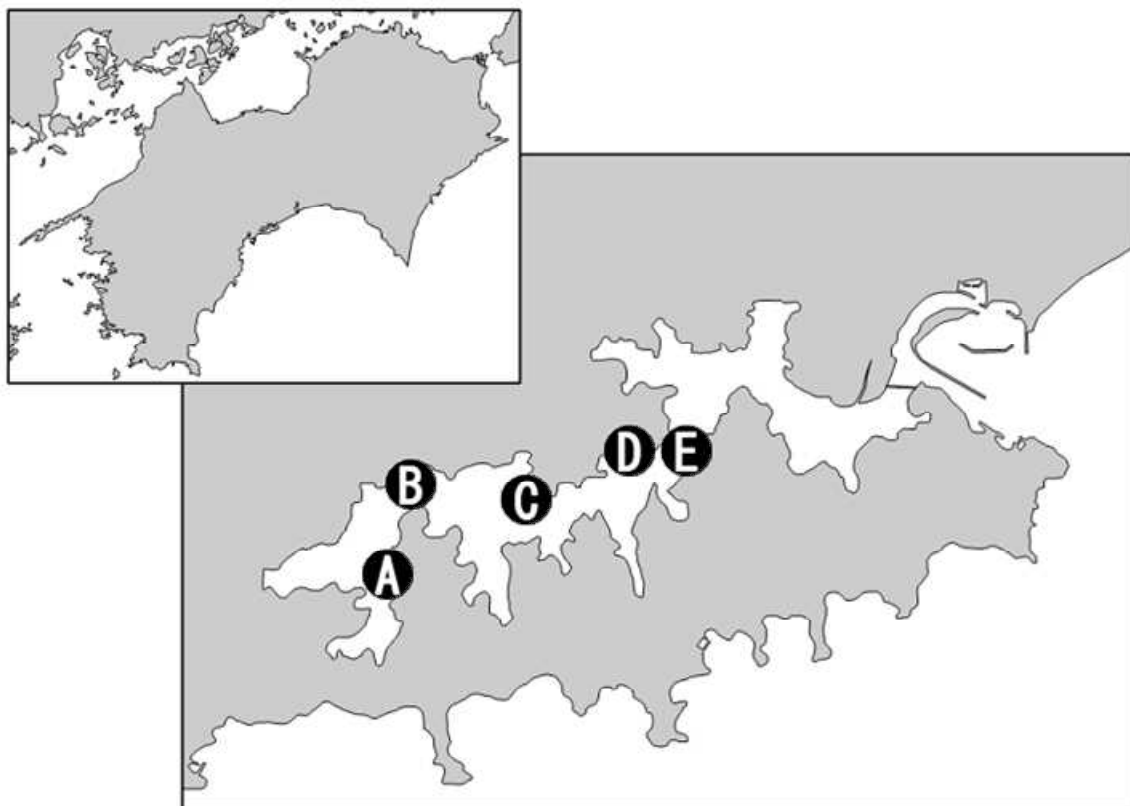
令和6年8月19日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

#### 概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で67 cells/mL、シャットネラ属が最高で4 cells/mL、タカヤマ属が最高で1,100 cells/mL確認されました。カレニア・ミキモトイが増殖傾向にありますので注意してください。

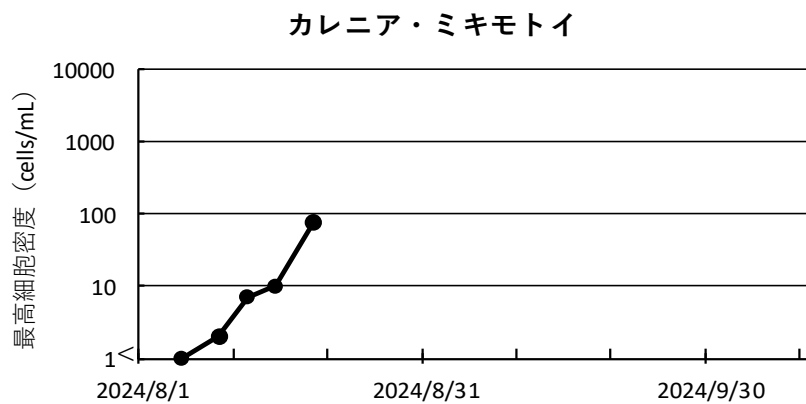
海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
A 鳴無 (2.9m) 【09:31】	0	29.6	25.9	6.2	0	0	0	-
	2	31.1	30.7	5.5	0	0	0	-
	5	29.2	31.2	3.1	0	4	0	-
	底層 8	28.5	31.2	0.3	0	0	0	-
B 中学校前 (3.1m) 【09:38】	0	29.6	26.6	6.4	0	0	1	3,000
	2	31.1	31.0	6.2	0	0	4	2,400
	5	30.2	31.7	5.1	0	0	6	200
	10	28.6	31.3	0.9	0	0	1	40
	底層 11	28.5	31.3	0.4	0	0	0	40
C 目ノクソ (2.8m) 【09:48】	0	29.6	26.9	6.8	0	0	280	-
	2	31.5	31.0	7.0	0	0	1,100	-
	5	30.7	31.7	6.4	1	0	7	-
	10	29.4	31.6	2.2	0	0	0	-
	底層 15	27.6	31.2	0.1	0	0	0	-
D 光松 (2.6m) 【10:02】	0	30.6	29.4	7.0	0	1	620	2,150
	2	31.4	31.2	7.0	67	0	50	1,100
	5	30.4	31.9	4.8	1	0	3	100
	10	29.6	31.7	2.9	0	0	0	80
	底層 16	27.5	31.4	0.2	0	0	0	20
E 大鹿 (2.7m) 【10:09】	0	30.5	29.4	7.1	0	0	300	-
	2	31.3	31.2	7.2	7	0	40	-
	5	30.3	31.8	4.8	0	0	1	-
	10	29.4	31.7	2.6	0	0	1	-
	底層 15.5	27.5	31.4	0.0	0	0	0	-

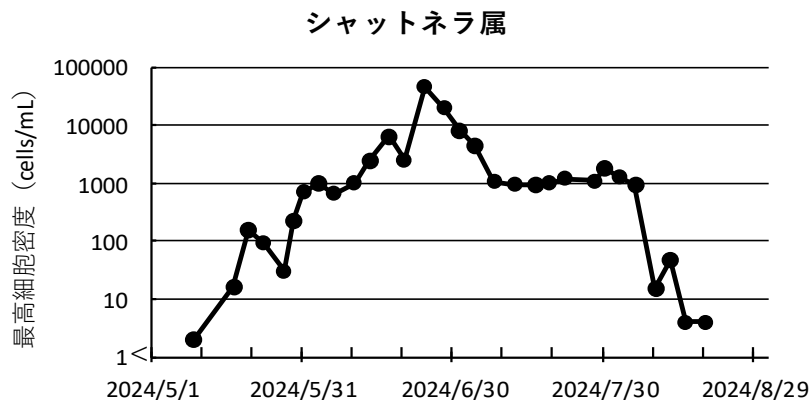


- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿

令和6年度 浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。